

■ 概略

広島大学平和センターは、広島大学の全学的施設として平和学に関する研究・調査と資料の収集を行うことを目的として、1975年7月8日学内措置により平和科学研究センターとして発足しました。平和学の学術的研究機関としては我が国最初のものであり、国立大学では現在なお唯一の研究機関です。2018年4月1日より機能強化が図られ「平和センター」と改称しました。平和学に関する研究・調査及び資料の収集を行うとともに、研究成果を教育の場に還元して平和に関する教育を推進します。

■ 主たる活動内容

- ・平和学に関する研究の推進
- ・内外の研究者連携・ネットワーク構築
- ・文献資料及びデータの収集・整理
- ・平和学に関する研究成果の発信
- ・研究成果の教育・社会への還元

※各年の活動状況は毎年発行の「Newsletter」を参照
(http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/03_Activity.htm)

■ 研究体制（2019年8月1日現在）

（〔 〕内は専門あるいは前職）

川野 徳幸 センター長・教授〔原爆・被ばく研究、平和学〕
片柳 真理 副センター長（併任）、大学院国際協力研究科
副研究科長・教授〔国際法、平和構築論〕
友次 晋介 准教授〔核不拡散、国際政治学〕
Luli van der DOES 准教授〔社会科学、多領域言説・表象分析〕

西田 恒夫 名誉センター長
〔元国際連合日本政府代表部 特命全権大使〕
木曾 功 特任教授
〔元ユネスコ日本政府代表部 特命全権大使〕

【兼 任】

学内研究員：15名、客員研究員：49名
名誉センター長：1名、顧問：1名

■ 蔵書数

約1万冊
広島大学図書館蔵書目録検索システム（広島大学OPAC）を通じて検索可能



広島大学平和センター

〒730-0053
広島市中区東千田町1-1-89
TEL: 082-542-6975
FAX: 082-245-0585
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp
HP: <https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/>



広島大学 平和センター



ご挨拶

“Only One”で“No. 1”の
研究・教育施設を目指して

広島大学
平和センター長
川野 徳幸



2018年4月1日より、平和科学研究センターを「広島大学平和センター」に発展させ、平和に関する研究・教育において、これまで以上に学内外で「中心的役割」まさに「センター」を担えるよう機能強化を図ることとなりました。英語名称は「The Center for Peace, Hiroshima University」です。

当センターは、これまで、国際シンポジウムや研究会、紀要等を通し、研究成果の積極的な発信を行ってきました。2014年からは、国内外の平和関連機関とのネットワーク構築事業も積極的に展開しています。教育活動に関しては、大学院国際協力研究科、総合科学部、教養教育で講義・ゼミを担当し、特に教養教育「平和科目」に関しては、その企画・運営において中心的な役割を担っています。2016年2月には、2008年4月から2015年3月までの諸活動に対する外部評価を受け、教育・研究・社会活動の各側面において、着実な成果を挙げていることが評価されました。

今後は、従来の業務に加え、「平和」にかかわる教育に積極的に参画する組織とし、その機能強化を図ります。学内に散在する平和研究、平和教育の組織・研究者及び国内外の平和関連機関との連携体制を整えることにより研究分野の特化と強化を行い、その成果を教育の場に還元します。教育面に関しては、教養教育にとどまらず、学内で展開する「平和」に関する教育プログラムにも主体的に参画します。また、研究面では、学内外に散在する平和に関わる研究者や機関と連携体制を整えて「ヒロシマ平和研究」領域、「グローバル平和研究」領域の2つの研究領域を確立します。そのほかにも、東千田理学部一号館跡地の保存・活用に関する企画立案にも積極的な参画を進めます。

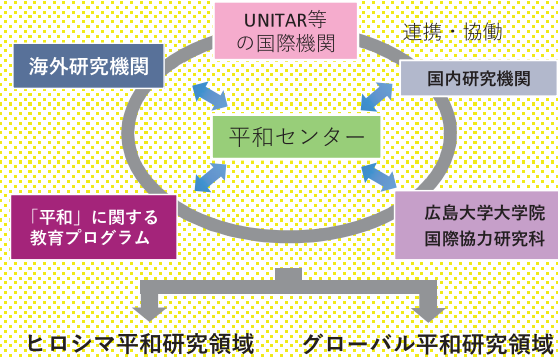
平和科学研究センターは昭和50年（1975年）7月8日に発足した日本最初の平和学の学術的研究機関です。この歴史ある伝統をしっかり守りつつ、「平和センター」としての新たな歴史を作っていく所存です。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2019年4月1日

研究活動

■平和学に関する研究推進 内外の研究者間のネットワークの構築

1. **ヒロシマ平和研究領域**（原爆・被ばく研究、復興研究、核兵器廃絶・軍縮に関する国際関係など）
 2. **グローバル平和研究領域**（平和構築、構造的暴力、環境など）
- という二つの研究領域を柱としています。
学内外および、日本の国内外の平和学、平和教育の組織、研究者を結び、その中核となるべく、共同研究、国際シンポジウム、研究会等、幅広く実施しています。



■文献資料・データの収集と整理

センター所蔵の学術図書は約1万冊、所蔵学術雑誌は約60点あり、平和学の文献資料としては屈指の蔵書数を誇ります。広島大学図書館蔵書目録システム（OPAC）を通して検索可能であり、図書館を通じて貸出可能です。

■平和学に関する研究成果、情報の発信

センターの研究活動の成果は、編著書、学術論文、学会報告のほか、センターの紀要『広島平和科学』、『研究報告シリーズ（CPHU）』の二つの出版物を通して公開しています。



教育活動

センターの構成員は、大学院、学部、教養教育において教育を担当しています。大学院国際協力研究科では講義・ゼミを担当し、学生指導を行っています。総合科学部では「平和学」を開講しています。教養教育と大学院共通科目の「平和科目」に関しては、その企画・運営において中心的な役割を担っています。また社会人を対象とした教育や、海外の大学生、大学院生を対象とした教育・研修プログラムにも積極的に参画しています。

社会活動

- * センターは、1995年、2005年に広島で開催されたパグウォッシュ会議の広島実行委員会事務局を担当し、会議を支援しました。
- * センターの構成員は県市設置の各種委員、学会やNPO法人の理事等を務めるほか、読売新聞社、朝日新聞社と被爆者アンケート調査を実施するなど、社会貢献に努めています。また、それぞれの専門において、新聞、TV等からの依頼に基づいてコメントを寄せています。
- * センターの学際的な研究成果を社会に還元するために、市民公開講座を開催しています。



2019年3月2日実施の市民公開講座
『被爆体験を「生きる力」へ』の様子